

くどう市長と語ろう！ 第6回ふれあいトーク



日 時 平成24年11月10日(土) 13:30~

場 所 みはらし会館(緑5丁目)

《第6回ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 13名

(男女別) 男性11名 女性2名

【トークの内容】

1. 人口減の歯止め策について
2. 新エネルギーの活用について（1の関連質問）
3. 稚内北星学園大学の活用について（1の関連質問）
4. 廃校の活用について
5. 地域活動拠点センター設置及び緑地区の施設について
6. 河川（クサンル川）の整備について
7. 市道の整備について
8. こまどり病院横の球場跡の利用について
9. 市議会議員の定数について

1. 人口減の歯止め策について

◆参加者からの意見等

○市の人口が年間5、600人減っている状態。なんとか過疎化に持っていかない、人口減にならない対策として市の考えあれば伺いたい。

◆市長の発言

○日本の人口そのものの人口が減っている状況で、我が街だけが人口増に転じられるかと言えば重い話。

○教育問題や医療環境、雇用問題などよく言われるが、少子化対策、開業医の定着や市費教員採用といった教育の充実などいろいろ取り組んでいるが、人が増える手立てとしては効果の表れるものが見えないのが正直なところ。

○子どもを産まないという価値観が定着してくると定住人口を増やす以外に交流人口を増やして、もっと街を賑やかにしたらこの街に住む人が増えるかもしれないとの観点からも取り組んでいる。スポーツ合宿の子どもたちや選手に街の良さを知ってもらう取り組みや映画のロケ地（フィルムコミッション）として街を賑やかにして当地に目を向けてもらうなどに取り組んでいる。

○このように様々な事業に取り組んでいるが、どの事業も過疎対策と言える。

○本州、道内もそうだが、人口を定着させるという意味では基幹産業的には土地を持つ農業に比べ、漁業、観光は弱いと思う。水産業もトンの時代からミリの時代になって、当時所得が全道でもトップクラスの水準だったが、伸びている人ももちろんいるが、生き残りが厳しくなっている。

○有効な手立てがなくつらいが、目減りを減らす努力はこれからも続けたい。皆さんの意見を聞きながらいろんな手を打たなくてはと思っている。

2. 新エネルギーの活用について

◆参加者からの意見等

○人口増の為にはただ歯止めだけでなく、稚内に産業を興す基盤を作らなくてはと思う。稚内で全国に誇れるものと言えば太陽光や風力など新エネルギーがある。風サミットで稚内から旭川へ大きい太い線をつなぐともっと活用できるという話があったが、ただ電力を作って送るだけでなく、外から企業が来て、作った電力を使って何かをしようということが考えられればよいと思う。

◆市長の発言

○（稚内は）風力については競争力を持っている。しかし安定性に欠ける電源。本来、火力等とセットで考えないと安定型と言えない。なので、これが地場のエネルギーということで、簡単に企業誘致には結びつかない。

○稚内は風のいいところだから、再生可能エネルギーを持っている街として、うちだけでなくこの地域全域でやれば理論的に北海道全部をまかなえるくらいの発電が出来る。と同時に、地産地消みたいな話でこの地域にどう生かしていくのかも並行して進むべきものと思う。送電網が弱いので国が強化してくれればもっと送れるようになるが、そうになると風車を回す事業を誰かがやらなくてはならないということだし、逆に世の中から見ると、あそこにエネルギー源があるとわかればいろいろPRできる。全国的にどのくらい知られているかと言えばほとんど知られていない。企業誘致としても我が街に目が向いているかと言えば向いていないと言える。環境の街だから来てくださいという働きかけも当然今後もやっていこうと思っている。

3. 稚内北星学園大学の活用について

◆参加者からの意見等

- 大学も一つの産業と考えてこの学校にいかにも多くの子どもたちが来れるか、稚内だけでなく地方から来れるような魅力ある大学にすることによって一時的にも計画的に人口が増えるのではないだろうか。何が魅力なのか市民皆で考えていく必要があるのでは？
- 東京の会社の人事担当者から地方の大学の中で北星学園大学の教授陣が素晴らしいという話を聞いたことがある。大学というものを地元ももっと評価してよいと思う。

◆市長の発言

- 定員に対して入学者が少ない状態。（意見で出た）少子化の話も影響している。地域創造学科も出来たがまだ浸透していない。ここが正念場と大学を話をしながらいろいろ取り組んでいる。維持することはもちろんであるし、経営含めて考えていかななくてはならない。
- 当時扱っていたコンピューター言語を利用したいと企業が来てくれたり、大学より毎年採用とした企業もあったが、コンピューターの技術、通信技術が進んでもやはりフェイストゥフェイスでいろんなことを話さなくてはならないとのことで東京の本社を往復する交通費の問題などで撤退したところもある。市も大学と交流できるよう、垣根を取り払う努力をしているが、評価していただいた部分は今後活かしていきたい。

※「その後の検討状況等」は特になし

4. 廃校の活用について

◆参加者からの意見等

(質問)

○車で通っていると市内の廃校が増えたのを目にするが、このままにしておくのはどうなのか、市長に聞いてみたい。

◆市長の発言

○天北小中学校の統合でいくつか閉校した際には地域でなにか利用できないかと検討され、上声問小中学校が自然体験施設になったがそれ以外は目立った利用はない。担当課からは問い合わせはあるが、実際に利用するところまでは結びついていないとのこと。

○閉校直後は法律の制約があったが、今は緩やかになっており、条件が合いさえすれば使っていただくのはやぶさかではない。ただ、廃校のあるところが交通的にも不便なので利用に結びついていないのかとも思う。

※「その後の検討状況等」は特になし

5. 地域活動拠点センターの設置及び緑地区の施設について

◆参加者からの意見等

(質問)

○北地区と東地区に活動拠点センターがあるのに南地区になぜないのか？

(意見)

○社教センター古くなって、球場、南小、大谷高校、電波観測所跡地など含めて活動拠点センターの話がある。町内会館も狭くなり困っている。

○拠点センターと言っても単なる会館ではなく、総合的なセンターにしなくてはならないのでは？いろいろな施設利用的な部分にしていくと地域の発展になるのではないかと？

○このみはらし会館も古くなっているが、元々葬儀主体の作りになっていて、2階が広間で下がトイレ。高齢者が集まりにくくなっている。

○大谷高校から上(緑4～6丁目方面)には公的に避難する場所はない。津波が来ることはないと思うが、仮に避難となれば土地の低い方(社教センターなど)に避難しなくてはならない。そういう問題も含め拠点センターを建設を要望したい。

◆市長の発言

○社教センターや学校が古くなっていること、球場、電波観測所跡地など施設や土地の問題などありなかなか進まないが、南地区の活動拠点センターの必要性は感じている。町内に有効に使ってもらえるにはどこにどういう建て方をすればよいか、関係町内の皆さんとも話をし、喫緊の課題として検討していきたい。

■ 検討状況など 【担当 … 政策調整部・市民協働課 総務部・防災安全課】

○緑地区の既存公共施設及び今後の整備予定公共施設については、市においても所管課が異なりますので、まずは、今後の公共施設の整備について、市としての考えをまとめて、地域と協議を行っていきます。協議する場としては、地域を全て網羅した「まちづくり委員会」を考えており、まずは、そのことを地域の皆さんと確認を行い、市が情報を地域に提供しながら、一緒になって協議検討を行い、施設の整備の方向性を検討していこうと考えております。(市民協働課)

○稚内大谷高校については避難場所として指定しておりますが、ご意見のありました緑4丁目～6丁目の地区にかけて避難所を整備する計画はありません。基本的には、津波が来る状況であれば高い土地に避難していただくのが大前提だと考えております。ただし、津波以外の災害であればその状況にもよりますが、高い土地から低い土地へ避難していただく事もあると考えております。(防災安全課)

6. 河川の整備（クサナル川）について

◆参加者からの意見等

（質問）

○緑町内を通るクサナル川は融雪期など市に迷惑をかけている。川掃除やっている方からも護岸が膨らんでいる状態で限度だと聞く。春はまだいいが、夏になるとドンガイや草で水面が見えない状態。下流の方は河川工事で拡幅対応しているようだが全体的にどうなっているのか？対策はむずかしいかもしれないが、計画的な取組をしてほしい。

（意見）

○大谷高校下付近の川沿いギリギリに住宅が建っていて、擁壁？のようなものが川の方に倒れていて住んでいる人が心配している。現地を見てほしい。
○何年前かに道でクサナル川に関係する町内会集めて審議会が行われたことがある。2級河川にする問題で当時も雪解け水のこととかいろんな話があった。今後も働きかけてやっていく必要があるのではないかな？

◆市長の発言

○お話の箇所は普通河川で市の管理。しかし国（開発）や北海道のように専門家がいない訳でもないのに、下流部と同様に2級河川として道で管理してほしいというお願いをしている。道も財政状況も厳しいだろうが、長い目で見たら市民生活に影響を与える重要な川は市町村より北海道に管理してもらった方がよいかもしれないと思う。

○維持管理はこれからもお話をさせてもらいながらやっていく。（2級河川については）今後も働きかけて要請はしていく。一朝一夕でできる問題ではないので、長いスパンで考えたい。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部・土木課】

○クサナル川下流部は2級河川として、北海道が平成19年より整備を進めており、現計画区間（南小付近まで）の整備は、今後10年間を要する見通しとなっております。上流部は次期計画区間として、2級河川に昇格後、引き続き整備を継続するよう、稚内市から北海道へ毎年要請を行っています。

○お話しにあるように、現況護岸は老朽化と背後地からの圧力により、膨らんだりブロックがはげ落ちたりしている箇所がありますが、護岸のすぐ背後に家屋が張り付いており具体的対応策を検討中です。

○市では、平成24年度に護岸調査を実施し、現地も確認しています。平成25年度から破損箇所について、部分補修を行っていきます。

7. 市道の整備について

◆参加者からの意見等

(質問)

○天北通りが出来て、はまなす方面に向かうのが非常に便利になった。通勤で利用しているが、緑から天北通りに抜けるには、こまどり4丁目の上から来て、こまどり病院から図書館前につながる道路の踏切を渡ってすぐ右折するか(曲がって線路沿いを通る:踏切横道路)、図書館前まで行ってコの字型で天北通りに入る方法がある。踏切通過後すぐ右折の場合は鋭角になり、踏切内でクランク状態になり交差できなくなる。天北通りを図書館の前までまっすぐ伸ばしてもらおうと天北通りを利用するのが楽になる。

(意見)

○踏切の中でクランクになってしまい交差できない。
○緑2、3丁目からはまなす方面だと環状線に上がるには、もう一度上がって回らなくてはならないし、道道を大黒方面に下りると信号と踏切でつかえてしまう。あそこをまっすぐ伸ばしてもらおうと利用価値がある。

◆市長の発言

○指摘の箇所は市有地としてお貸ししているが、道路としてなぜ通さないのかと色々な議論が当時あった。天北通りから通すと図書館前に交差点が出来てしまう。そのすぐ下にも道路がぶつかり、短い区間でT字路や交差点がたくさん出来ると危険になるので道路にしないで土地としてお貸ししている経緯がある。
○私の認識にずれがあったかもしれないので、もう一度検討させてほしい。

■ 検討状況など 【担当…建設産業部・土木課】

○ご意見を基に検討しましたが、天北通りをさくらホールの前を通り図書館前まで真っ直ぐ延長すると、その交差点から踏切まで25m程度しかない状況となり、こまどり側から来て右折車が待機すると、後続車が踏切付近までつながることもあり非常に危険です。25mの間に交差点を2カ所作ることは、道路の機能性を低減させることになり、交通の流れの阻害にもなります。この道路を新設した場合、青葉通との交差点に信号規制が必要となり、待機時間が増えるため、道路の利用度は減少し、結果的に踏切の横通りを利用すると考えられます。新設道路の利用交通量が限られるため、生活の利便性が大きく向上するとは判断しておりません。
○踏切横道路の機能を高めるには、まず踏切交差点の改良が必要ですが、現在有効な手法はありません。道路を整備するにも、用地処理と民家の建築状況も考慮しなければならず、整備について多くの課題がありますが、これらについては今後引き続き検討を行います。

8. こまどり病院横の球場跡の利用について

◆参加者からの意見等

(質問)

○こまどり病院横の球場跡地が荒れているのがもったいない。木を植えたいと思っている。道路もぬかるんでおり、沢から水も流れてくる。木を植えることで水を吸い、治水にもなる。

(意見)

○公園とか大げさになるので、植林するところから始めたい。うぐいすやこまどりも鳴いており、本当は森にすればいいだが。

◆市長の発言

○一度見たが雑草や笹も生えており、工事もしなくてはならないだろう。水を防ぐのも大変。(植樹に)協力することは問題ないが、相当の野良仕事になると思う。

○維持も問題。現地がぬかるんでいるので、春になったら再度視察したいと思う。

※「その後の検討状況等」は特になし

9. 市議会議員の定数について

◆参加者からの意見等

(質問)

○人口減の中、定数問題で何人くらいがよいのか？市長の考えあれば聞きたい。

(意見)

○昔段階を踏んで議論して24人まで定数が減った。その時にいろんな団体から請願があって、議会改革特別委員会というのが作られ審議された経緯がある。外から声をあげなくては。

◆市長の発言

○自分も議会もそれぞれ選挙で選ばれており、それについて言える立場ではない。教科書のような話だが、そういうを決めるのは市民の権利であるし、議論する場があって決まるのが一番いいんだろうと思うが、我々が口を挟める問題ではないし(議会で決めるという)今のやり方を批判するつもりはない。ただ街の中には厳しい意見が多いのだろうと感じる。それをそれぞれがどう受け止めてどう判断するということだと思う。